チャペル週報

あなたがたの中で偉くなりたい者は、
皆に仕える者になり、いちばん上になりたい者は、
すべての人の僕になりなさい。

（マルコによる福音書　10:43b-44）

2009.5.11～5.15No.5
関西学院宗教センター

☆チャペル・スケジュール☆

時間 10：35～11：05　　場所 各学部チャペル

5月11日(月)
神　David Wider（宣教師）
経　舟　木　　譲（宗教主事）
人　小　西　砂千夫（人間福祉学部教授）
短大　聖書物語「ふしぎな時・昇天と聖霊降臨」

5月12日(火)
大学合同チャペル（西宮上ケ原）　10:20－11:20
「愛を身につける－オンリーワンをめざして－」　細川正義（副学長）
於：中央講堂
大学合同チャペル（西宮聖和）　10:20－11:20
「潤いに満ちたキャンパスにて」　田淵　結（大学宗教主事）
於：6号館611教室
大学合同チャペル（神戸三田）　10:20－11:20
「"Mastery for Service" を体現する世界市民」Ruth M. Grubel（院長）
於：Ⅱ号館201教室

5月13日(水)
大学合同チャペル（西宮上ケ原）　10:20－11:20
「"Mastery for Service" を体現する世界市民」Ruth M. Grubel（院長）
於：中央講堂
大学合同チャペル（西宮聖和）　10:20－11:20
「若者を歩むべき道の初めに教育せよ」　宮田満雄（啓明学院院長）
於：6号館613教室
大学合同チャペル（神戸三田）　10:20－11:20
「より広くより深く－神戸三田キャンパスの新入生のために」　松木真一（理工学部宗教主事）
於：Ⅵ号館101教室
短大　高　田　正　久（聖和短期大学教授）

5月14日(木)
神　中　道　基　夫（神学部准教授）
文　音楽チャペル　バロックアンサンブル
社　出会い①　打　樋　啓　史（宗教主事）
法　栗　林　輝　夫（宗教主事）
経　嶺　重　　淑（関西学院会館宗教主事・人間福祉学部宗教主事）
商　English Chapel　Richard J. Stinson（宣教師）
総　今　泉　信　宏（宗教主事）
短大　広　渡　純　子（聖和短期大学学長）

5月15日(金)
院　永　田　雄次郎（文学部教授）
神　岩　野　祐　介（神学部助教）
文　English Chapel　Andreas Rusterholz（宗教主事）
経　舟　木　　譲（宗教主事）
人　上ケ原ハビタット
教　田　淵　　結（宗教主事）
理　「素直に！－スイスアルプスにて」　松　木　真　一（宗教主事）

◇ランバス早天祈祷会　毎金曜日　午前8：20～8：40　於：ランバス記念礼拝堂（上ケ原）
5月12日（火）　春季宗教運動のために　　山　本　圭　子
5月15日（金）　社会学部のために　　高　坂　健　次
◇総合政策学部早天祈祷会　毎木曜日　午前8：40～　　於：宗 教 主 事 室

「変化」が求められる時代に守るべきもの
春季宗教運動・大学キリスト教週間への招き

嶺　重　　淑

最近とみに「変化」という言葉を耳にするようになった。今年１月に行われたアメリカ大統領選挙で、“ CHANGE ”（変化！）を訴えたバラク･フセイン・オバマが当選し、黒人として初めてホワイトハウス入りを果たしたことは記憶に新しいが、それにしても、最近では日本の社会全体が「変化」を肯定し、あらゆる人に「変化」するように求めているようにさえ思える。実際、日本人は概して変化を好み、古いものを大事にするよりは、時代の風潮や流行に追随し、どんどん新しいものを取り入れていこうとする傾向が強いといわれる。もちろん、百年に一度といわれるこの経済不況のなかで、この閉塞感を打ち破るためにも何らかの方策なり変化が求められるのは当然であろうし、改善すべき点はどんどん改善すべきであろう。しかし、その一方で、長期的な視野に立つことなく、とにかく変えればいいのだというような風潮があるとすれば、それはそれで問題だろう。

今年、関西学院は創立120周年を迎えるが、この学院がその120年の歩みのなかで、時代の流れとともに様々な意味で大きな変化を遂げてきたことは想像に難くない。そして今現在、関西学院は大きな変化の渦のなかにある。昨年度は初等部と人間福祉学部が開設され、この４月には聖和大学と合併、教育学部開設、さらに来年は国際学部開設と千里国際学園との合併が予定されており、120年の歴史のなかでも、このような急激な変化を伴う激動の時代はなかったであろう。

確かに「変化」は必要であり、変化を避けていては前進することはできない。その意味でも、時代遅れの旧弊に固執するのではなく、時代に即した新しい道を常に追い求めていくべきである。しかしその一方で、この学院には、120年間変わることなく脈々と受け継がれてきた貴重な財産（建学の精神）があることも事実であり、この財産はこれからも守り続けていかねばならない。

今年も春の大学キリスト教週間の季節を迎えようとしている。この機会に、改めて関西学院の原点に立ち返り、120年経った今でも変わることなく受け継がれてきている目に見えない財産について思いを深めてみたい。

（人間福祉学部准教授・宗教主事）

World Citizens who Embody “ Mastery for Service ”

Ruth M. Grubel

Kwansei Gakuin ’s founder and first Chancellor was Walter R. Lambuth, an American citizen who was born in China and traveled around the world to share God ’s love as a preacher, medical doctor, teacher, and administrator. Still remembered as a “ World Citizen, ” Dr. Lambuth was no longer at Kwansei Gakuin when our school motto, “ Mastery for Service, ” was introduced in 1912 by our fourth Chancellor, Dr. C.J.L. Bates. However, Dr. Lambuth surely embodied this motto throughout his life. Not only did he study diligently to excel in his subjects of medicine and theology, he was constantly trying to learn more about the people, cultures, and languages of the countries where he lived and worked. Furthermore, his motivation was always to serve others.

As most of you may know, Kwansei Gakuin ’s mission statement was created recently to describe our school ’s identity and its reason for existence. The kind of people we are trying to nurture, from kindergarten to graduate school, are those who, like Dr. Lambuth, have a global perspective, and are motivated to develop their abilities to serve others. Many of our faculty, staff, alumni, and students have been excellent models of this ideal, and it is our goal to carry on inspiring world citizens for the twenty-first century.

In the Bible, Jesus said that we should love God with all our heart, soul, strength, and mind, and our neighbors as ourselves. I believe the

meaning of this passage relates closely to "Mastery for Service." By making the most of our God-given gifts in body, mind, and spirit, we can express our love and thanks to our creator. However, it is not only the relationship between God and ourselves that is important. Jesus was careful to remind us that our ties to others should also be based on love, the most profound motive for service. When Jesus went on to explain who are our neighbors, he told the story of the good Samaritan. Without giving the details of the story, the point Jesus made was that regardless of differences in culture, status, race, or religion, those who have compassion for others are the good neighbors.

Dr. Lambuth was a good neighbor to people in many different countries, and to people with many different points of view. I hope that we can aspire to follow in his footsteps by mastering our God-given abilities and using them to serve our neighbors.

（院長）

建学の精神

細　川　正　義

関西学院は今年創立120周年を迎えます。その節目の年に長い歴史の中で共有してきたミッション（使命）とスクールモットーを再確認し、新しい時代にふさわしい輝きと、存在価値を持った学校として進んで行こうとしています。

そのミッション（使命）として、キリスト教主義に基づく「学びと探究の共

同体」として、集うすべての者がスクールモットーである“Mastery for Service”を体現する世界市民を育むことをめざすことを確認しています。そして、“Mastery for Service”については「奉仕のための練達」と訳し、隣人・社会・世界に仕えるため、自らを鍛えるという関学人のあり方を示したものであることを改めて明示しました。

関西学院の教育理念の基点である「聖書」には、私たち一人ひとりを神様が愛してくださっていることと、その神の愛において「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい」（ヨハネによる福音書　15：12）と隣人愛の大切さを教えています。関西学院は120年前に小さな群れから出発して、現在は幼稚園から大学まで擁した大変大きな集団になってきました。しかし、どんなときにも一人ひとりを掛け替えの無い存在として愛し育むのが関西学院の教育の使命であるということと、私たちが喜びと感謝をもって隣人（となりびと）を愛する人になれるように自分たちを鍛えることを志すこと、これが「聖書」に立脚した関西学院のスクールモットーの意味だと解釈できます。隣人とは、私たちの直ぐそばにいるひとりの友であり、更に世界をまなざした人類愛につながるものであることは言うまでもありません。

今回のミッション（使命）とスクールモットーの再確認において示された言葉のひとつに「オンリーワンを育てる」学生活動支援があります。これは〈一番〉を目指すための支援ではありません。一人ひとりが自分を掛け替えのない存在であることを自覚し誇りを持つことと、隣人に対しても掛け替えの無い存在として交わることが出来る人間になることへの支援を目指したことばです。自分は愛されているという確信と隣人愛の責任への自覚、関西学院に集うものたちすべてが今一度、この原点の自覚に立ち返りたいと願っています。

（副学長）

潤いに満ちたキャンパスにて

田　淵　　結

「眉にかざす清き甲（山）、萌えたつ緑、Mastery for Service」

（関西学院校歌『空の翼』　第二節）

旧約の冒頭、創世記のなかで主なる神が最初に作ったエデンの園、そこに最初に人間が住むことになった場所もまた、自然のみずみずしさに満ち溢れた場所であったようです。そこにすむアダムとエバとは、その自然の豊かさのなかで安定した日々をすごしました。しかしやがてその自然の豊かさを失わざるを得なくなった人間に対して、自然は「土は茨とあざみを生えいでさせる」と、その厳しさをもって向き合うことになります。私たちがいつしか、自然のなかに生かされている存在であり、そのなかで守り育まれるべきものとしての立場を忘れつつあるなかで、私たちはまさにエデンの園を追われたアダムとエバのように、自然に敵対するものとして自然の厳しさにさらされつつあるようです。

４月から新しく聖和キャパスに設けられた教育学部に移ったある日、一号館４階に与えられた個人研究室から見渡すと、上ケ原キャンパスからとはまた違った光景に目を奪われる思いでした。そのなかで圧巻なのは甲山の存在感です。さらに聖和キャンパスが「聖和の森」と関西学院キャンパスを取り囲む環境の美しさ、キャンパスの潤いを強く感じさせられます。

1889年に開設された関西学院は今年創立120周年を迎えますが、最初のキャンパスとなった現在の神戸市灘区王子公園付近はかつて「原田の森」と呼ばれるほどの原野の一角だったといわれており、そのなかで子どもが道に迷ってしまったという事件さえあったようです。そして創立40周年の1929年、大学昇格を目指して学院は西宮上ケ原に移転しますが、その理由は校地の手狭さだけではなく、神戸市の発展のなかで学院を取り巻く自然環境が悪化したこともあり

ました。そして上ケ原に移って造られた最初の校歌が「空の翼」ですが、その歌詞は上ケ原キャンパスの風景をみごとに描き出しています。その後上ケ原キャンパスでは戦後までにもう二つの校歌が造られました。そのひとつが「みどり濃き甲山」、まさにその曲名そのものが自然に包まれたキャンパスを歌い上げていますが、もう一曲が“ A Song for Kwansei ”英国の詩人ブランデンの詩に山田耕筰が作曲しましたが、この校歌もまたブランデンが実際に学院のキャパスですごした印象のなかで生まれたもので、“ Beneath your trees, beneath your towers ”と木々の豊かさが改めて歌われます。

日本に数多くある大学のなかで、関西学院大学ほど豊かな環境に囲まれた大学は数少ないでしょう。そのキャンパスに学ぶこと、そしてそこでキャンパスライフをすごす毎日の中で、私たちは主なる神が創造されたと聖書が語る、ゆたかでみずみずしい自然環境によって育まれるのです。そこで私たちが感じる風がまた、主なる神の息吹として私たちを生かし、私たちにあらたな生き方とビジョンを開くものとなるのです。

（大学宗教主事、教育学部教授・宗教主事）

関西学院の教養

宮　田　満　雄

聖和キャンパスでの初めての本学院春季宗教運動大学合同チャペル講師にお招きを受け深い感慨を味わっています。それは聖和大学の前身の大きな流れはランバス女学院で、関西学院と共にランバス先生ご一家がその創立にかかわっておられたからであり、私自身が以前三年間聖和大学の学長を務めたことがあるからです。両大学の100年を越える歴史を考えるとその背後に人知の測り知

れない神の導きが加わっていることを思わざるを得ません。

さて、皆さんが関西学院大学に入学されるについてはそれぞれに異なった理由があったことと思いますが、入学したからには自分の母校となるこの学院が何を大切なこととして考えているかということを見過ごしたまま卒業してしまわないように願っています。

1889年関西学院創立時の学院憲法には創立の目的として『若者達が知的宗教的教養を身につけるよう訓練する』そしてここで宗教的というのは『キリスト教主義に基づく』ということであると英文で明記してあります。英文では知的宗教的教養のことをintellectual and religious culture と表現しています。教育機関ですから知的成長を目指すことは当然ですが、もう一つ大切なことはこの学院で学ぶ者が聖書に示されている精神に基づいて心豊かに成長するということです。

人間の真の成長を目指す教育に必要なことは知識や技術を教えることのほかに豊かな人間性を養うということです。豊かな人間性はどのようにして養われるのでしょうか。年令と共に身体的成長が伴うというようなものではありません。精神年令という言葉があることが良い証拠です。豊かな人間性を養うためには丁度豊かな収穫を得るために土地をよく耕し手入れするような努力が必要です。因みに英語では『耕す』はcultivate ですがこの単語は『みがく』『品性を陶冶する』という意味を持ち、それにつながる名詞が culture なのです。この語は『文化』と憶えている人が多いと思いますが、ここでは『教養』です。教養と博識は違います。関西学院の宗教的教養とは人間性の深い所を耕しそこに目を注ぐ、つまり、自分自身と向き合うということと深くつながっています。人間が真に生かされるのはどのような時か。それは聖書の説く『仕える人』に徹する時です。本学のスクール・モットーが示す人生態度です。皆さん一人一人の人生モットーとして生かされることを祈ります。

（啓明学院院長・元関西学院院長）

より広くより深く
―神戸三田キャンパスの新入生のために

松　木　真　一

４月１日の入学式から、もう１か月半が過ぎました。ここ神戸三田キャンパスも、多くの新入生を迎え、毎日活気に満ちた風景を見せています。西宮のキャンパスと違って、学部の数は２つだけです。それでも総政619名、理工552名あわせて1200名近くの学生が新しく入学し、１４年前のキャンパス開設時を思うと、在学生の数も教職員の数も急増し、新しい建物や施設も着実に増え、広大な美しいキャンパス、素晴らしい自然環境の中に身を置きながら、事実、神戸三田独特の雰囲気を実感せざるを得ません。特に関学唯一の理系・理工学部の存在は総合政策学部の学生には大きな刺激になるでしょうし、また総合政策学部生との出会いは理工学部生に極めて有意義なものです。このことはまた、西宮の多くの学部生との交流や出会いにおいても同様で、互いに新しい刺激や意義を共有し合う場と機会がますます広がっていくように、と期待し願っています。

どの学部もいわゆる定礎の聖句を持っています。総政の聖句は「・・仕える者になり、すべての人のしもべになりなさい。・・仕えられるためではなく仕えるために・・」（マルコ１０：４３－４５）、理工の聖句は「愛をもって互いに仕えなさい」（ガラテヤ５：１３）。大いに共通するところがあります。建学の精神マスタリー・フォア・サーヴィスとも見事に連関しあっています。むしろ、建学の精神が学部それぞれの聖句を通して具現している、とも言えるようです。ここで「仕えなさい」（ガラテヤ５：１３）の原語ドゥーリュエテは、「しもべ」ドゥーロス（マルコ１０：４４）と同根の動詞です。共通する所以です。これらの語は言うまでもなく、人々に仕えなさい、互いに仕えあいなさい、という勧めを意味しています。しかしそれだけではありません。もっと深い意味も含んでいるようです。

仕える、しもべ、愛をもって互いに仕えるということは、やはり「自由である」というところでこそ本当に可能になるのではないでしょうか。自己自身から、自己の狭い視野や枠や殻から、自己のエゴイズムや欲望や権威や立場から解放され自由になるところでこそ、です。自分に囚われ、いつまでもエゴイズ

ムや自分の立場に固執し、狭い視野や殻に閉じこもっていては、本当は決して実現できないのだ、と。宗教改革者ルターの名著『キリスト者の自由』が思い出されます。

関西学院が１２０年の間一貫してきたキリスト教主義教育、一貫して主張してきたキリスト教は、まさにこのような「自由」を今も学生一人ひとりに語りかけています。理工の学生は、現代の科学技術文明の最先端のところで学び勉強し研究を始めようとしています。その場合、こうした文明に絡み合って、現代人をますます苦しめている深刻な諸問題にもしっかり目を開き、その原因と指摘される従来の科学万能主義、科学技術の行き過ぎを生んだ人間の欲望や一義的な思考の枠組みから自由になって、より広いより深い視野に立って取り組んでほしい、と願っています。そのことこそ現代の人々に、また社会や世界により広いより深い貢献をしていく原動力となるのではないでしょうか。総政の学生は、現代における政策研究の重大な課題を担っています。その場合、現代世界の混迷・混乱状況、虚無的な危機をもたらした人間のエゴイズムやニヒリズムから解放された自由で柔軟な目と心で、より広くより深く現代社会や世界のために貢献していく豊かな学びを期待しています。

他学部の学生と共に力を合わせて、関西学院の新しい未来と前進に向けて確かな一歩を力強く踏み出すことができるように、と祈っています。

（理工学部宗教主事）

●チャペル・オルガニスト募集

関西学院では毎年チャペル・オルガニストを募集しており、本年は５月30日にオーディションを行います。採用されますと個人レッスンを受けることができ、チャペルの奏楽をはじめ、発表会、研修会、コンサートなどを通して、教会音楽を中心とした幅広い知識、技能を身に付けることができます。

応募方法：「募集要項」「応募用紙」を吉岡記念館事務室宗教センターまたは聖和キャンパス事務室（１号館教育学部担当）で受け取り、オーディションの応募用紙を提出してください。

☆「募集要項」「応募用紙」がダウンロードできます。
http://www.kwansei.ac.jp/c_christian/index.jsp

応募期間：５月１日（金）～28日（木）の事務室開室時間

お問い合わせ：吉岡記念館事務室宗教センター　０７９８－５４－６０１８

●ランバスチャペル・ヌーンコンサート

西宮上ケ原キャンパスのランバス記念礼拝堂では、５月に入りますと学生音楽団体による恒例のミニコンサートが開かれます。お昼休みのひととき、どうぞ耳を傾けてみてください。

５月12日（火）関西学院グリークラブ
５月14日（木）関西学院大学混声合唱団エゴラド
５月19日（火）関西学院大学交響楽団管楽アンサンブル
５月21日（木）関西学院大学交響楽団弦楽アンサンブル
６月１日（月）関西学院大学応援団総部吹奏楽部
６月８日（月）関西学院バロックアンサンブル
６月９日（火）関西学院ハンドベルクワイア
６月11日（木）関西学院ゴスペルクワイアPower Of Voice
６月23日（火）関西学院聖歌隊

いずれも12時50分から13時20分まで、ランバス記念礼拝堂（上ケ原）にて。

●文化総部書道部 「聖句展」

と　き：5月11日(月)～15日(金)9：00～16：30 ＊月12：50から 金12：50まで
ところ：吉岡記念館１階ラウンジ

●大阪梅田キャンパスチャペル

５月15日(金)18：00～18：20
【メッセージ】アンドレアス・ルスターホルツ（文学部宗教主事）
５月22日(金)18：00～18：20
【メッセージ】樋口　進（宗教センター宗教主事）

●関西学院会館の日曜礼拝

授業期間中の第二・第四日曜日に、教職員と学生有志による礼拝が行われます。一部英語を用いるバイリンガル形式です。どなたでも参加できますのでどうぞお越しください。

５月10日(日)、24日(日)　午前10時～11時
関西学院会館ベーツチャペル

●ＣＤ・ＤＶＤライブラリー

吉岡記念館事務室宗教センターには、教会音楽、キリスト教に関するＣＤやＤＶＤを備えています。本学学生及び教職員（学生証または身分証明書必要）であればどなたでも利用できますので、希望者は事務室までお越しください。

●使用済み切手収集にご協力ください

本学では日本キリスト教海外医療協力会（ＪＯＣＳ）切手部の活動に協力し、使用済み切手の収集をしています。通常切手も対象としていますのでどうぞ吉岡記念館常設の回収箱にお届けください。